



撮影場所：白川郷（岐阜県）

Vision 無き時代

— 混迷の時代をどう生きるか —

混迷の時代が続いています。

戦後日本の碩学大儒で有名な安岡正篤先生がその著書で、日本人の劣化を嘆いておられるくだりがあります。

当時、昭和30年代半ばの著述で、今より50年程前の事です。あれから半世紀以上の時が流れ、現在を生きる日本人が、その当時の日本人と比べて果たして如何かと問うた時に、今日の日本人のレベルが良くなったと思う人は少ないのではないのでしょうか。

こうした民度の劣化は今日迄の国家、組織の指導者の劣化に外ならないのではないのでしょうか。

指導者に最も必要な要件は、未来への道筋を示して、それをビジュアル化して皆に共通の認識を持たせる事にあると思います。それがビジョンです。

今日の日本は、物質文明的には50年程前とは比較にならないほど豊かになり、便利で快適な生活を皆が享受して暮らしています。

医療も発達し、寿命も延び、本来皆が幸せになったと感じるべきところですが、多くの人々が将来への不安と閉塞感を感じながら生きていて、常軌を逸した事件も後を絶ちません。

果たしてこうした現象はどこに起因するのでしょうか。

我々は眼前の「利」や「覇」を競うだけの時代の中で、常に他人との比較で優越感や劣等感を感じ、それにより幸せか不幸かを判断しながら生きていてはいませんか。

為政者も中長期的ビジョンの無い、大衆迎合でその場しのぎの政策ばかりを行い、結果的に民度を下げ、真の国力を落とし続けている様に思います。

こうした混迷の時代に振り回されずに生きるには、個々人が時代を超越して、毅然として生きる上での哲学とビジョンを持つ為の真の学問を学ぶ必要があると思います。

夫れ学は通の為に非ざるなり。
窮して困し、憂えて意衰えざるが為なり。
禍福終始を知って惑わざるが為なり

(荀子：安岡正篤先生著「知命と立命」より引用)

【訳】 真の学問というものは出世や就職のためではない。人生の困難に出会って窮しても、苦しまないこと、心配で憂えて、意欲が衰えることがない為であり、何が災いであり禍なのか、また何が福であるのか、どう始まり、どう終わるのかというものごとの禍福終始を知って惑わない為にある。

という言葉があります。

また、慶応義塾の創始者 福沢諭吉の有名な「心訓」には、

- 世の中で一番楽しく立派な事は、一生涯を貫く仕事を持つ事。
- 世の中で一番みじめな事は、人間として教養のない事。
- 世の中で一番さびしい事は、する仕事のない事。
- 世の中で一番みにくい事は、他人の生活をうらやむ事。
- 世の中で一番尊い事は、人の為に奉仕し決して恩に着せない事。
- 世の中で一番美しい事は、すべての物に愛情を持つ事。
- 世の中で一番悲しい事は、うそをつく事。

とあります。

我々は、正攻法の努力こそが明日を切り開く唯一の道だと確認し、今日の浮薄な世相に惑わされる事なく、明日は限りなく明るいと信じて生きてゆきたいものです。

令和元年 七月吉日

徳真会グループ
代表 松村 博史